《調査報告》

阿武隈急行グロットグラム調査報告（1）

半沢　康
武田　拓

1．はじめに

筆者らはこれまで共同で宮城・福島両県の方言調査に取り組んできている。本稿ではそのうち，阿武隈急行線沿線（宮城県角田市－福島市－郡山市）で実施したグロットグラム調査の結果についてその一部を報告し，両県県境付近の方言変容と伝播に関する基礎的なデータを提示する。

グロットグラム（地理×年齢）調査は日本の方言学において開発された技法である。線上の地点を対象に世代別の調査を行って言語データを収集する。結果をマトリクス状に図化することにより，対象とする地域の言語伝播や言語変容の様相を把握することができる。これまでに奥羽線，東海道線，山陽本線など日本の主要な鉄道経路上で調査が行なわれ，福島県内では，東北線（井上史雄1985,井上史雄他編2003），常磐線（半沢康他1997,加藤正信他編2004），磐越東線（加藤正信他編2004），磐越西線（廣田卓也2003），水郡線（奥貫浩子2003）各沿線での調査結果が報告されている。

福島県は福島市，郡山市，会津若松市，いわき市という各地の中核となる都市を中心とした生活圏が存在し，方言区画もおおむねそれら生活圏に対応している。今回報告する阿武隈急行線調査の結果に，先に実施済みの磐越東西線の結果を重ねることで県内主要４都市間の方言動態が一望できることになる。さらに東北線グロットグラムの結果と比較することより，仙台市を中心とする宮城県方言の影響についても考察することが可能となる。また，今回の調査地域のうち福島市－郡山市（南福島－日和田）間は1980年当時のグロットグラムが作成されており（井上史雄1985），共通項目については20年間の実時間上の変化を知ることもできる。

2．調査の概要

2.1　調査地点

宮城県角田市から福島県郡山市までの，阿武隈急行線（角田市－福島市間）および東北線（福島市－郡山市間）沿線の地区。阿武隈急行線沿線では主要駅，東北線沿線ではほぼ各駅の周辺の地区を対象とした。インフォーマントは調査当時70,60,50（または40),30,20代の５世代。一部にインフォーマントが見つからず，世代が欠ける地点がある。

阿武隈急行線は1984年に設立された第３セクター方式による鉄道。宮城県柴田町（槻木）と福島県福島市を結ぶ（約55㎞)。福島市以南は一部東北線に乗り入れ，福島県郡山市まで通じる。福島県伊達郡および宮城県伊具郡の主要な公共交通機関として通勤・通学を中心に利用されている。

2.2　調査時期

阿武隈急行グロットグラム調査は2003年８月７日～10日に実施。協力機関の都合による別日程の調査，補充調査などを以下の日に随時実施した。

８月５日,25日,9月１日～２日,2004年１月20日,2月３日,6日。

2.3　調査参加者

調査には以下のメンバーが調査員として参加した（所属は調査当時)。

武田拓（仙台電波高専），半沢康（福島大），遠藤理恵（郡山市安積中），奥貫浩子（塙町笹原小），廣田卓也（喜多方市関柴小），本多真史（いわき明星大大学院生），早津知範，深江雄希，柏木大作，宍戸茜，高橋瞳，滝田弓子，西山秀典，曳地麻美，藤岡由衣，村松祥成，望月愛子，山崎小百合（以上福島大学学生）

2.4　協力機関

調査にあたり，インフォーマントの紹介，調査会場の提供など以下の公的機関に多大なご尽力をいただいた。ご協力いただいた皆様のお名前を記して感謝の意を表します（肩書き等は調査当時のもの)。

郡山市日和田公民館(館長・遠藤敏夫様，石沢貞義様)
本宮町荒井公民館（館長・渡辺幸雄様，遠藤様）
本宮町中央公民館（館長・桑原政行様）
二本松市杉田公民館（館長・石川淳一様）
二本松公民館（菅野清一様）
安達町中央公民館（生涯学習課長･官野哲様,服部栄一様）

福島市杉妻公民館（館長・佐藤寛様，髙橋清己様）
保原町上保原公民館（館長・石田十四夫様）
保原町中央公民館（生涯学習課長・小林誠様）
梁川町中央公民館（館長･菅野源太郎様,岡崎秀男様）
梁川町富野公民館（館長・宍戸榮一様）
丸森町中央公民館（館長･阿部義郎様,副館長･目黒様）
角田市中央公民館（館長･小梨本夫様,副館長･会田様）
福島市立松陵中学校（教頭・工藤裕也先生）

2.5　本稿で使用する他のグロットグラムデータ

本稿のグロットグラムには，阿武隈急行グロットグラム調査以外の以下の調査データを比較のために表示する。

（1）東北本線グロットグラム（ＴＨグロットグラム）

阿武隈急行グロットグラム調査とほぼ同時期に，東北線，津軽線，函館本線沿線（福島市－北海道滝川市間）を対象としたＴＨグロットグラム調査（井上史雄他編2003）が実施された。本稿ではこのうち福島市－仙台市間のデータを使用する。

（2）仙台市周辺グロットグラム

また仙台市周辺の状況については仙台市を中心とする放射状グロットグラムデータも合わせて使用する（武田拓・半沢康2003）。

（3）磐越東線グロットグラム

福島県内の中核都市である郡山市といわき市を結ぶグロットグラム。筆者らが2001年に実施した（加藤正信他編2004）。阿武隈急行グロットグラムと重ねることで福島市を含む3都市間の方言動態が捉えられる。

なお，これらに加え,2004年には宮城県白石市から山形県高畠町までのグロットグラム調査（七ヶ宿グロットグラム調査）を実施している（武田拓・半沢康2005）[1]。今後，このデータを加え，宮城・福島(・山形）県境付近の詳細な言語動態について総合的な分析を行なう予定である。

3．データ整理・グロットグラム図の作成

阿武隈急行グロットグラム調査の調査テープを半沢がすべて聴きなおし，グロットグラム図を作成した。作成にはMicrosoft Excel上で作動するマクロプログラムを使用した。

本稿では紙幅の関係上，阿武隈急行グロットグラム調査でＹＮ項目（特定の語形を示し，インフォーマント自身の使用・理解の有無を尋ねる項目）として調査した項目の結果を示すこととする。記号は回答にもとづき，原則として「●　言う（昔は言った)」「△　聞く（自分は言わない)」「－　聞いたことがない」とする。ただし複数の語形の使用を確認した項目やインフォーマントから補助的に情報が得られた項目については，その結果を反映させて上記以外の記号化を行なった場合がある。

比較のために示す他のグロットグラム調査では，当該項目が必ずしもＹＮ方式で調査されているとは限らない。調査方法が異なる場合は回答結果をＹＮ項目の回答に変換して示した。当該語形が使用語または理解語として回答されている場合は，それぞれ●，△を示す。一方，他の語形を回答している場合で，当該語形を「聞いたことがある」もしくは「聞いたことがない」という判断ができない場合は「.」という記号を用いる。当該項目が調査されていない場合は空欄とした。

今回データを使用するグロットグラム調査は，すべて調査時の年齢を基準として各世代のインフォーマントを紹介いただいて調査を行なっている。本稿のように調査時期が異なるデータを同時に表示すると，世代のずれが生じてしまう。本稿ではインフォーマントの生年にもとづいてグロットグラム図を作成する。地点を縦軸にとり，横軸に10年刻みで出生年代を表示する。地点によっては同一世代に2名のインフォーマントが含まれたり，逆にある世代が空白になったりする場合がある。

4．グロットグラム図（別掲）

グロットグラム図は別途Web上に公開する。掲載する図は以下のとおり。

001.調査時のインフォーマントの年齢
002.インフォーマントの性別
131.カタス［かたづける］
132.カッタルイ［疲れた・やる気がおきない］
132-2.カッタルイの意味
133.ダイジ［大丈夫］
134.紙にノボル［紙を踏む］
135.イキナリ暑い［非常に暑い］

[1] 2004年度福島大学奨励的研究経費の助成を受けて実施した。

137.インガミル［酷い目にあう］
138.イズイ［しっくりこない，落ち着かない］
139.セッカクドーモ［訪問時の挨拶］
141.ジャス［運動着］
142.ワケル［ご飯をよそう］
143.オダツ［調子にのってはしゃぐ］
144.セブン［セブンイレブン］
145.ミルウェイ［ミルキーウェイ］
146.ズッポ［会津っぽ］
147.ムツケル［拗ねる］
148.オッピサン［曽祖父母］
149.キシャズ，キラズ［おから］
150.カツケル，カズケル［なすりつける］
151.チョス［いじる］
226.隣までアルッテ行く［歩いて行く］
227.見たトキある［見たことがある］
228.やめろデー［やめろよ］
231.もう帰れ
232.明日は家サいる［家にいる］
233.鉛筆はここサある［ここにある］
234.デパートは駅前サある［駅前にある］
236.行ったッケ，誰もいなかった［行ったら］
237.私，昨日東京へ行ったんだッケ［行ったんだよ］
238.○○さん，昨日東京へ行ったんだッケ［行ったんだよ］

【引用文献】

井上史雄1985『関東・東北方言の地理的・年齢的分布（ＳＦグロットグラム)』東京外国語大学語学研究所
井上史雄・玉井宏児・鑓水兼貴編2003『東北・北海道方言の地理的・年齢的分布（ＴＨグロットグラム)』科研費報告書
奥貫浩子2003「福島県東白川郡方言の研究－水郡線グロットグラム調査の結果から－」福島大学教育学部卒業論文
加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康編2004『関東・東北境界域言語地図｜常磐線・磐越東線グロットグラム』科研費報告書
武田拓・半沢康2003「仙石線グロットグラム調査報告」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
武田拓・半沢康2005「宮城・山形県境地域の方言の実態－七ヶ宿街道沿いの調査から－」『仙台電波工業高等専門学校研究紀要』35
半沢康・小林初夫・武田拓1997『宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告』私家版
廣田卓也2003「福島県会津地方の方言の研究―磐越東西線グロットグラムの比較から―」福島大学教育学部卒業論文

［付記］

１．本稿は科学研究費補助金（2002－2004年度若手研究（Ｂ)「現代東北方言の文法的諸特徴の記述およびその変容に関する調査研究」課題番号14710289）による研究の成果の一部である。また阿武隈急行グロットグラム調査の実施にあたっては，福島大学学術振興基金からも研究助成を受けている。

２．本稿には，当初全グロットグラム図の掲載を予定していたが，編集委員会の判断により別途Web上で公開されることとなった。グロットグラム図については以下のＵＲＬを参照されたい。
http : //www.lib.fukushima-u.ac.jp/nenpo

（はんざわやすし　福島大学文学・芸術学系）
（たけだたく　仙台電波工業高等専門学校）